四種混合(初回)ワクチン予防接種について

四種混合ワクチンは、ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオの4種類の病気それぞれに対するワクチンを混合して、4種類のワクチンを1度に接種できるようにつくられたワクチンです。

ジフテリア

・ジフテリア菌の感染で起こります。

・症状は高熱、のどの痛み、せき、嘔吐など。扁桃に偽膜とよばれる膜ができ、呼吸困難を起こすことがあります。

・発病2、3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こす場合があります。

百日せき

・百日せき菌の感染で起こります。

・かぜのような症状で始まり、続いて、連続的にせき込むようになります。乳幼児はせきで呼吸ができず、唇が青くなったり、けいれんが起きたりすることがあります。

・肺炎や脳炎などの重い合併症を起こし、乳児では命を落とすこともあります。

破傷風

・土の中にいる破傷風菌が傷口から体内へ入ることによって感染します。患者の半数は気が付かない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいますので、感染する機会は常にあります。

・菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉のけいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状が気付かれ、やがて全身のけいれんを起こすようになります。

・治療が遅れると死に至ることもあります。

ポリオ(急性灰白髄炎)

・「小児麻痺」ともよばれ、糞便中に排泄されたウイルスが口やのどから体に侵入して感染します。

・多くの人は症状が出ませんが、軽いかぜ様症状や胃腸炎症状を起こすこともあります。

・感染者の 1,000～ 2,000 人に1人の割合で手足の麻痺を起こし、一部の人には永久に麻痺が残ります。呼吸困難により死亡することもあります。

・日本では自然感染による患者発生はありませんが、一部の国では今でもポリオの流行があります。

対象者

生後2か月から7歳6か月になる日の前日までの者

・有効期限を過ぎると費用は全額自己負担となります。有効期限内に余裕を持って接種しましょう。

接種時期 接種回数

標準的には、それぞれ20日以上、56日までの間隔をおいて3回接種

副反応

主な副反応：接種部位の発赤・しこり・腫れなどの局所反応

重い副反応：まれにショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病など

★五種混合ワクチンとの交互接種について

令和6年4月1日から五種混合ワクチンが定期接種化されましたが、四種混合ワクチンで接種を始めた人は、四種混合ワクチンで接種を進めることが原則とされています。
五種混合ワクチンとの交互接種(残りの接種回数は五種混合ワクチンを接種すること)を希望する場合は、かかりつけ医に相談のうえ、保健センターへご連絡ください。

医療機関に行くときの持ち物

①接種券
(無料となります)

②母子健康手帳
(接種記録を記入します)

③マイナ保険証等と子ども医療費受給者証
(診察の結果、接種できなかった時に必要です)